【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第５区分
【発行日】平成19年9月13日(2007.9.13)

【公開番号】特開2005-48353(P2005-48353A)
【公開日】平成17年2月24日(2005.2.24)
【年通号数】公開・登録公報2005-008
【出願番号】特願2004-220490(P2004-220490)
【国際特許分類】
Ｄ０６Ｍ　13/463　(2006.01)
Ｄ０６Ｍ　11/79　(2006.01)
Ｄ０６Ｍ　13/144　(2006.01)
Ｄ０６Ｍ　13/188　(2006.01)
Ｄ０６Ｍ　13/224　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｄ０６Ｍ　13/463
Ｄ０６Ｍ　11/79
Ｄ０６Ｍ　13/144
Ｄ０６Ｍ　13/188
Ｄ０６Ｍ　13/224

【手続補正書】
【提出日】平成19年7月27日(2007.7.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項５】
カチオン性化合物を組成物全体の１～４０重量％、好ましくは２～２０重量％含有する請求項１～４のいずれか一つに記載の固体柔軟剤組成物。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
補足的な利益としてこの様な組成物は、水性ベース製品中に存在する時に不安定である幾種類かの有効物質および添加物の商業化を実現可能にする。更にEster Quats の様な幾種類かのカチオン性分子にとって固体組成物は貯蔵安定性を向上させることができる。固体組成物は液体組成物中で非相容性である製品を使用することを可能ともする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
可溶化剤系ｃ）のためには適する有機溶剤はあらゆる一価または多価アルコールでもよい。炭素原子数１～４のアルコール、例えばメタノール、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、直鎖状のおよび分岐したブタノール、グリセロールおよび上記アルコー

ルの混合物である。他の有利なアルコールには相対分子量２０００以下のポリエチレングリコールがある。特に２００～６００の相対分子量で４５重量％までの量のポリエチレングリコールおよび４００～６００の相対分子量で５～２５重量％の量のポリエチレングリコールを使用するのが有利である。エチレングリコール、プロピレングリコール、ポリエチレングリコールおよびポリプロピレングリコールの低級アルキルエーテルも使用することができる。溶剤の有利な混合物は０．５：１～１．２：１の比の一価アルコール、例えばエタノールおよびポリエチレングリコールで構成されている。